

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語と数学は、都平均を下回った。国語では、言葉の特徴や使い方に関する事項が都平均よりも低い。数学では、「関数」の正答率が都平均よりも低いことがわかった。

○主体的に学習に取り組む生徒も多いが、問題解決に向けて論理的に考えたり、自分の意見や考えを根拠をもとに論理的に説明する、文章で書くことが苦手な生徒が少なくない。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○無解答率は減少傾向にあるが、生徒一人ひとりが考え、グループで互いの意見を出し、考えを深め、深い学びにつなげ、それを根拠や理由をもとに、論理的に説明できる場面を多く設定した授業づくりをしていく必要がある。

○本時のめあてがどの程度達成できたかの振り返りはできているが、何が課題でどのように学習を進めていけばよいのか等の自己決定力や自己調整力を身に付けることができるように、スタンダードSの取組や振り返りの視点を明確にし指導を行っていく必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○小学校の学びの連続性を意識し、「板橋区授業スタンダード」「板橋区授業スタンダードS」に基づいた授業を行い、基礎的・基本的な学力の定着、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。

○一人一台端末を活用し、興味関心をもてる授業、明確な発問等で気付きのある授業、課題解決的な活動、個に応じた活動、200字程度の文章で考えをまとめる活動、個人－グループ－個人で考えを深める協働的な学習を推進し、生徒が主体的に学習に取り組めるように授業改善を図る。

○小単位ごとに100字程度の振り返りを行い、主体的に学習を調整できる力を育成する。

○英語検定、漢字検定へのチャレンジや各種コンクール等への応募を推進し、一人ひとりの学習意欲を喚起し、力を向上させる。

○学力向上専門員等による放課後及び長期休業中などに計画的に学習教室を実施し、学力の向上を図る。

○SDGs・環境・キャリア・郷土愛をテーマに「課題設定・情報収集・整理分析・できることを実行・まとめ発表」を実施し、探究的な学習の充実を図るとともに、これからの板橋を語れる生徒の育成を図る。

○「M34学びのすすめ～家庭学習の手引き～」に沿った家庭学習指導の充実を図る。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○めあての設定→自力解決→集団解決→振り返りの学習の流れを定着させ「分かる・できる・楽しい」授業づくりを行う。 ○生徒が自分に合った学習内容、方法、進度、順序を自己選択して自己決定、自己調整を図れる場面を設定する。	○教科書で学ばせる視点を明示し、Input（認識）-Think（思考）-Output（表現）を意識した授業展開をする。 ○「個人－グループ－個人」で、考えを深め、根拠を踏まえた論理的な文章で表現できるように指導の充実を図る。	○各教科等の学び、学習内容面と学習過程面（課題設定－情報収集－整理分析－できることを実行－まとめ発表）を総合的な学習の時間につなげられるようにし、探究的な学習を行う。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○学びのエリアのめざす子ども像や課題を共有し、「一教科一取組」の実施及び「読み解く力」の育成を推進する。	○児童生徒が自発的に運動に親しむ姿勢を育むとともに、生涯にわたる心身の健康と体力づくりの基礎を涵養し、生徒の運動能力の現状や生活習慣の課題を踏まえ、ICTを活用した授業の実践、日常的な運動機会の創出、および安全な運動環境の整備を一体的に推進していく。	○障害の有無や学習環境の多様化にとらわれず、児童生徒が主体的に学び、個性を伸ばすことができる教育の推進を図るとともに外部人材の積極的な活用、不登校や多様な背景をもつ児童生徒へのきめ細かな支援を展開し、誰一人取り残さない教育環境を構築する。